

シンポジスト 岩川明子さん

現在、私は90歳の実母の介護をしております。現状はいわゆる寝たきりとされる状態ではありますが、日々様々なケアやリハビリを受け、実際には3～5時間程度の端坐位、時々立位をも維持することが可能です。こうした状態を支えてくださっているのは母を中心とする総合的、合同チームだと考えています。

このような態勢は、普通の日常生活を送ることを可能にする上での不可欠な要素と捉えています。母の状態に沿って出来上がった在宅介護だからこそ可能なのかもしれません。同時に、キーパーソンであるはずの私も専門の方からの指導を受けるうちに、母に触れることの大切さや表情の変化などでコミュニケーションが可能なこと、そしてその背景にはチームの方々の熱心な支援に支えられて今があるということに気づくようになりました。そうした在宅でのチームケア、我が家のカスタマイズされたケアについてお話しできたらと思います。